

〈演題〉

「心身の冷え」に対する東洋医学の試み

〈講師〉 近畿大学 東洋医学研究所 教授

新谷卓弘 氏

最近の内科系二大疾患は、「アレルギー疾患」と「こころの病」といわれます。一見、関係のない病気ですが、共通項に「冷え」があります。すなわち、アトピー性皮膚炎に代表されるような「赤ら顔」の方が増えていますが、温鍼刺激（鍼を刺してから体表面を暖める）で回復が速やかになる方が多く、この病態（体表面は熱を帯びていますが、身体内部は冷えている）を「潜証（せんしょう）」と称して治療しています。また、「こころの風邪」といわれる「うつ病態」では、他人に対して無関心になりやすく、「こころの冷え」を指摘されています。東洋医学では、「氣虚（ききょ）」という生命エネルギーが低下した病態で無関心になりやすいと考えるため、氣虚に対する治療の実際をお示しします。

◇日時 平成20年12月5日(金) 14:50～16:20

◇場所 滋賀県立大学 交流センター 研修室1～3

◇対象 学生および一般(参加無料)

講師紹介

新谷卓弘（シントニ タカヒロ）

昭和33年3月9日和歌山県東牟婁郡生まれ。富山医科薬科大学医学部卒。飯塚病院漢方診療科医長、富山医科薬科大学和漢診療学教室医局長、鐘紡記念病院和漢診療科医長を歴任。現在、岡山大学医学部講師（東洋医学）併任、近畿大学東洋医学研究所教授。

KAMPO EYES シンポジウム副会長、日本東洋医学会関西支部支部長など多方面で活躍。

著書に『心に効く漢方～あなたの「不定愁訴」を解決する』（PHP 研究所）、『最新情報 漢方』（NHK 出版、共著）、『現代漢方を考える』（薬事日報社、共著）、『冷え症・むくみ。ホントなの ウソなの』（環健出版社）などがある。

〒522-8533

彦根市八坂町2500番地

滋賀県立大学人間文化学部

TEL0749-28-8401

FAX0749-28-8479

※ 一般の方もご自由に参加ください。(当日参加も可能です。)



主催 滋賀県立大学人間文化学部

共催 滋賀県立大学交流センター

